

# 下肢静脈瘤の血管内焼灼術について

城北病院・城北診療所（2023年2月）

静脈瘤の血管内焼灼術は2000年頃に米国を中心に始まった治療法で、静脈の中に細いファイバーを通して、レーザーやラジオ波の熱によって静脈をふさいでしまう方法です。以前から行われているストリッピング手術は、太ももの悪くなった静脈を手術で取り除きますが、血管内焼灼術は中から静脈を焼灼してふさぎ、血が流れないようにします。一般的なカテーテル手術と同じく「低侵襲治療」と呼ばれる方法です。

血管内焼灼術の良い点は、一言でいうと身体に優しい“楽な”治療です。従来のストリッピング手術では足のつけ根と膝の2ヶ所を切開しなければならないのに対し、レーザー治療では膝の内側に細い針を刺すだけで治療することができます。また、太ももの血管を引き抜かず、その場所で焼いて塞いでしまうので、出血や手術の後の痛みが少なくなります。膝下の小さい静脈瘤は縮んで目立たなくなるのでそのまま経過観察しますが、大きい静脈瘤は小切開で切除します。

## (1) 血管内焼灼術

月曜あるいは水曜日入院、朝食は絶食にして頂き、水やお茶などは来院するまでは飲んでいただいて結構です。特別な指示の無い限り通常内服しているお薬を飲んで来て下さい。当日に手術です、静脈瘤を焼灼するため太ももから膝にかけて5-6ヶ所の局所麻酔が必要になりますが、これは一番細い針を使って麻酔します。また、手術中は局所麻酔に加え点滴から麻酔薬を使用して眠くなるようにします（静脈麻酔）ので、目が覚めたら手術は終了しています。膝下の静脈瘤は小さいものであれば時間と共に小さくなって行きますが、大きいものは3-5mm程度の切開で切除しますが傷跡はほとんど目立ちません。

術後は弾力包帯を巻いて一泊していただき、翌朝静脈がきちんとふさがっているかを確認するためエコー検査を行い、問題なければ弾性ストッキングを着用して退院となります。

## (2) 術後の注意点と外来通院

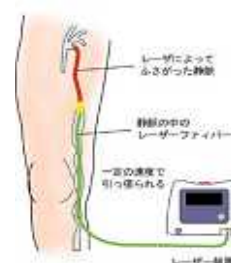
退院当日シャワーは可能で、翌日から入浴していただいて結構です。通常は術後一ヶ月頃に外来受診していただき超音波検査を行います。その後は半年後と必要なら一年後に再診をお願いしておりますが、状況に応じて2-4週間ごとに外来受診していただくこともあります。また、皮膚の切開が必要だった場合には、術後一週間ほどで診察させていただく場合もございます。なお、きずがあっても絆創膏は防水ですので、シャワーや入浴は通常通りで結構ですが、切開部はタオルでこすらずに押すように拭いてください。

## (3) 手術の問題点及び合併症

血管内焼灼術ではおおむね目立つ静脈瘤は焼灼・切除しますが、治療してない静脈瘤内に血栓を形成することが稀にあります。通常そのまま様子を見ますが、必要に応じて注射針で穿刺するか小さな切開をおいて血栓のしぼり出しや静脈瘤の追加切除を行う場合もあります。また静脈瘤の残存が目立つ場合に再結紮・切除等を行うこともあります。半年ほど経過を見れば縮小・消失することがほとんどです。

退院後に立ち上がった時、階段を登る時に、太ももに違和感やつっぱり感を生じることがあります。また、一週間程すると傷は硬くなり太ももを押すと若干痛みが出て来ますが、静脈瘤がきちんと治療されているためですので、気にせずどんどん動いて下さい。

その他、静脈瘤に沿って皮膚が赤く腫れ痛みを伴ったり、ごくごくまれですが深部静脈血栓症、肺梗塞などの合併症も報告されています。



以上の事柄を治療法決定のご参考にしていただければと思います。